Bintsu びんの3R通信 Vol. 64
2025年 12月23日発行
ガラスびん3R促進協議会

GLASS BOTTLE 3R

ガラスびん3R推進のための 第4次自主行動計画（2021～2025）

2024年実績のフォローアップ報告

当協議会は2006年から5年間ごとの自主行動計画を策定・公表し、
取り組みの進捗は毎年フォローアップし、公表しています。
このほど、第4次自主行動計画の4年目に当たる2024年の実績がまとまりましたので、報告します。

Webでさらに詳しく

Reduce リデュース

軽量化率は、前年より若干減少したが 1.5%の目標値を達成。

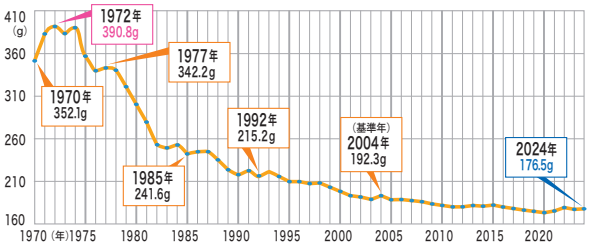
ガラスびんの軽量化の取り組みは、いち早く今から50年以上前からオイルショックを契機に、消費者の要望やニーズへの対応を図り、資源やエネルギーを節約するために開始しました。以後、中身メーカーとガラスびんメーカーの連携により、中身の保護を前提に薄肉化の限界を見据えた上で、ユニバーサルデザインなども取り入れ、機能面も補強しながら軽量化に取り組んでいます。

①一本当たりの重量変化

1本当たり単純平均重量は、2024年176.5g（1972年比▲54.8%）となっています。比較的質量の重いリターナブルびんの減少や少容量びんの増加、軽量化したガラスびんの他素材容器への移行などの影響も受けていますが、過去半世紀近くにわたり、軽量化を進めてきています。【図1】

単純平均重量は、2004年（基準年）実績の192.3gに対し、2024年実績は176.5gと8.2%（15.8g/本）の軽量化が図られました。しかし、これにはびんの容量構成比の変化が含まれているため、自主行動計画では容量構成比の影響を緩和した加重平均重量の軽量化率を目標値に設定しています。2024年の加重平均軽量化率は2.2%（4.2g/本）の軽量化となり、2025年までの自主行動計画の目標値「1.5%の軽量化」をクリアしています【表1】。なお、単純平均軽量化率から加重平均軽量化率を引いた6.0%（11.6g/本）はびんの容量構成比の変化によるものです。↗

【図1】ガラスびんの1本当たり単純平均重量の推移（g/本）



【表1】1本当たりの加重平均軽量化率の推移

	2004年（基準年）	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
加重平均軽量化目標	－	▲1.5%	▲1.5%			
加重平均軽量化率	－	▲2.2%	▲1.9%	▲2.5%	▲2.4%	▲2.2%
軽量化による資源節約量（トン）	－	19,918	18,016	23,904	22,472	18,979

ガラスびん3R推進のための第4次自主行動計画（2021～2025）

2024年実績について報告します。

↘ガラスびんは製びん技術の高度化に裏付けられた開発により軽量化されていますが、軽量化に貢献した商品が他素材に置き換わることや、ガラスびんの持つ特性（リユース適性、意匠性、質感、重量など）が重視された容器の選択などが影響し、ガラスびん全体としての軽量化は限界に近づいているといえます。
なお、軽量化による資源節約量は、2006年～2024年（18年間）で、372,895トン（100mlドリンクびん換算35億2,416万本）となりました。

②軽量化品目数

2024年に新たに軽量化された商品は4品種5品目、その軽量化重量は1,395トンとなりました。自主行動計画を開始した2006年から2024年までに軽量化された商品は、11品種297品目となっています。

2024年の軽量化事例

キレートレモン
155ml シリーズ
従来びん 165g
軽量びん 154g

ニッスイ常温びん詰め
130ml シリーズ
従来びん 176g
軽量びん 144g

リユース Reuse

**リターナブルびん使用率は昨年より伸張。
関係主体と連携を深め、
新たなリユースシステムの構築を目指す。**

ガラスびんは「内容物の香味を吸着しない」「細菌などがつきづらい」「容器の成分が溶出しない」などの特性があるため、洗浄すれば何度でも内容物を充填できる、衛生性・安全性に優れたリユースに最適な容器です。

①リターナブルびんの使用量実績

リターナブルびんは業務用と家庭用宅配というクローズド市場を中心に存続していますが、その使用量は経年的な減少傾向にあります。2024年の使用量実績は47万トン（基準年比25.7%）となりました。【表2】

この結果、2024年のびんのリターナブル比率（リターナブルびん使用量÷（国内ワンウェイびん流通量＋リターナブルびん使用量））は33.2%となり、30%台に回復した2023年よりも伸張しましたが、コロナ禍以前の水準には届きませんでした。

【表2】リターナブルびんの使用量実績（万トン）とリターナブル率（%）

	2004年（基準年）	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2024年実績基準年比
リターナブル比率（%）	53.7	30.1	27.0	28.0	32.0	**33.2**	–
リターナブルびん使用量	183	47	39	43	48	**47**	25.7%
国内ワンウェイびん量（輸出入調整後）	158	109	105	110	103	**94**	59.5%

リターナブル比率＝リターナブルびん使用量÷（国内ワンウェイびん流通量＋リターナブルびん使用量）

②持続性の確保に向けた取り組み

びんリユースシステムの維持には、取扱量の大半を占める1.8L壜（一升びん）の回収率向上が重要です。このため、日本酒造組合中央会や1.8L壜再利用事業者協議会などと連携し、毎年度の回収率把握と改善に取り組んでいます。また、びん商の活動維持のため、一升びんに加え新たな共通リターナブルびんが必要との認識から、統一規格びん推進委員会が発足し、当協議会も参画しました。720mlびんを対象にした新たなリユースシステム構築を目指しています。

さらに、びんリユース推進全国協議会では、「びんリユースからはじめる、捨てない文化」をテーマに「びんリユースシンポジウム2024」を開催。株式会社斗々屋の梅田社長による基調講演をはじめ、リユースを通じた“捨てない文化”の実践事例やガラスびんの価値を紹介しました。

③びんリユースシステムのライフサイクル分析

「びんリユースシステムのライフサイクル分析」を行い、リユースによる環境負荷の削減効果を数値化し、広報活動等に活用しています。

リサイクル Recycle

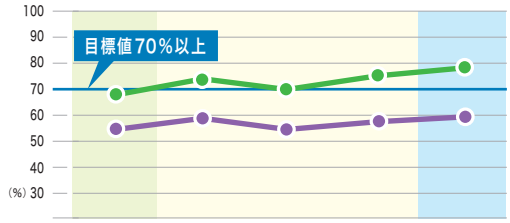
リサイクル率は77.2%で目標を達成。「びんtoびん」の推進には収集・運搬方法の改善と色選別精度の向上が重要。

①リサイクル率の推移

ガラスびんは何度でも水平リサイクルが可能で、国内でリサイクルが完結しています。

2024年のリサイクル率は77.2%となり、2025年までの自主行動計画の目標値「70%以上」をクリアしています。一方、水平リサイクル率であるガラスびん用途向けリサイクル率は59.8%となりました。これは、リサイクル率ならびに「びん to びん率」ともに改善したことによります。【図3】

【図3】リサイクル率（再資源化率）の推移



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
リサイクル率（%）	69.0	73.9	70.2	75.3	77.2
ガラスびん用途向けリサイクル率（%）	55.7	58.1	54.8	57.8	59.8

ガラスびん用途向けリサイクル率が安定して推移してきたのは、自治体のガラスびん分別収集・色選別の推進による成果ですが、その一方で、空きびんが分別・運搬方法、色選別方式によっては細かく割れるため、選別残渣の増加や「無色」・「茶色」の「その他の色」への混入等の課題があり、無色と茶色の構成比は低下しているのに対し、その他の色の構成比は上昇しています。リサイクル率ならびにガラスびん用途向けリサイクル率の向上により、ガラスびんの国内資源循環の効率をさらに高めるためには、自治体の収集・運搬方法の改善と色選別の精度向上への取り組みが重要になります。

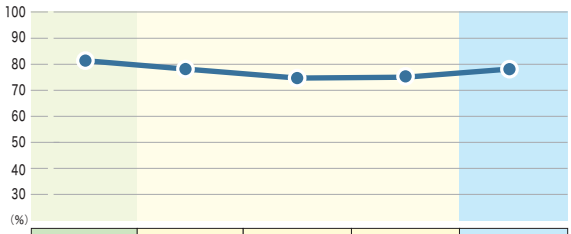
②びん to びん率の推移

ガラスびんはきちんと色別（無色・茶色・その他の色）に選別すれば、何回でも水平リサイクルが可能です。

リサイクルされたガラスびんのうち、ガラスびん原料としての再生利用された割合を示す指標である「びん to びん率」の2024年実績は77.5%となりました。【図4】

【図4】びん to びん率の推移

びん to びん率= ガラスびん用途再商品化量 ÷ 再資源化総量



2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
80.8%	78.4%	76.1%	76.9%	77.5%

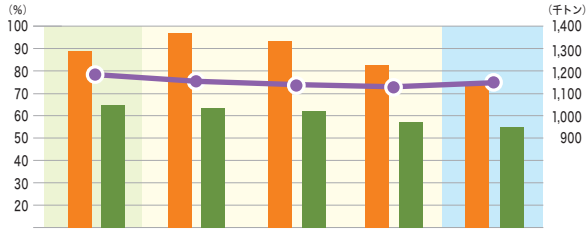
80%を切ったのは、ガラスびん用途に向かない「その他の色」のびんの回収量構成比が増加したことが大きいと思われます。

ガラスびんの高度なリサイクルである「びん to びん」を推進するためには、家庭から排出されたガラスびんの自治体の収集・運搬方法の改善と選別施設での色選別の精度向上が重要となります。

③カレット利用率の推移

「ガラス容器製造業」は資源有効利用促進法で「特定再生利用業種」に指定され、「ガラス容器製造業に属する事業を行う者のカレットの利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令」により、国内で製造されるガラス容器のカレット利用率（ガラス容器に占める使用されたカレットの重量の割合）の目標が定められています。2024年のカレット利用率の実績は75.4%となり、2025年までの目標値の76%に届きませんでした。【図5】

【図5】カレット利用率の推移



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
原材料総投入量（千トン）①	1,349	1,379	1,367	1,316	1,260
カレット使用量（千トン）②	1,051	1,037	1,015	975	951
カレット利用率（%）②÷①	77.9	75.2	74.3	74.1	75.4

2025年9月18～19日
北海道の4自治体・広域組合を視察しました

北海道の4自治体（遠軽地区広域組合・紋別市・網走市・北広島市）の選別施設を視察しました。
このうち3自治体・広域組合(遠軽地区広域組合・紋別市・網走市)は、2023（令和5）年度の1人当たり分別基準適合物引渡量が全国平均を上回っており、好事例取材として、北広島市は選別精度が向上したため選別状況を視察しました。
取材結果は、Webサイトをご参照ください。

2025年11月29日
「新宿3Rフェスタ」に出展

新宿駅西口広場で開催された「新宿3Rフェスタ～みんなでつくる地球の未来～」にNPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットと共同で出展しました。
啓発ツール『ガラスびん3R クイズde ビンゴ』を用いた参加型イベントを実施。来場者は老若男女を問わず、昨年を上回る413名が参加し、楽しみながらガラスびんの3Rへの理解を深めていただき、「楽しく学べた」「分かりやすかった」と好評をいただきました。

2025年10月27日
石塚硝子株式会社「リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞」を受賞

石塚硝子株式会社は、廃棄されていた鶏卵の卵殻をガラス原料の石灰石代替として活用する取り組みが評価され、「令和7年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」にて協議会会長賞を受賞しました。
卵殻利用は年間140tに拡大し、グループ会社でもボーンチャイナ原料や工業用途へ展開。未利用バイオマスを資源循環に組み込むことで環境価値を高め、地域連携や業界全体への広がりも期待されています。

2025年12月10～12日
「エコプロ2025」に展示ブースを出展

東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2025」に展示ブースを出展しました。今年はガラスびんの3Rに加え、“＋リニューアブル”の取り組みも紹介しました。ブース来場者は、『ガラスびん3Rクイズ』に挑戦し、楽しみながらガラスびん3Rへの理解を深めていただきました。さらに、最終日の午後にはエコプロでは初めて『ガラスびん3R クイズde ビンゴ』を実施しました。会期中には約2,500人がブースを訪れ、ガラスびんの取り組みを知っていただく機会となりました。

◀「クイズde ビンゴ」を実施している様子

▲お米のもみ殻、鶏の卵殻実物展示

ガラスびん3R促進協議会
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-21-16　日本ガラス工業センター1階
TEL.03-6279-2577　FAX.03-3360-0377
発行人：ガラスびん3R促進協議会　事務局長　田中 希幸